

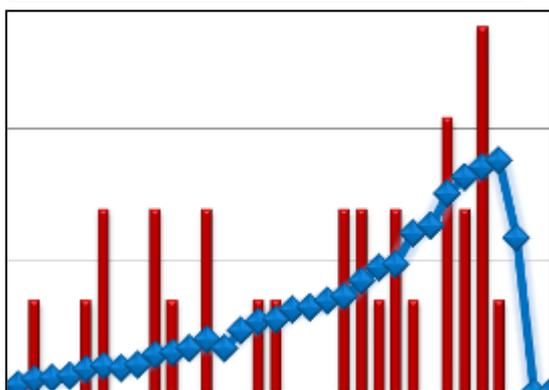
平成26年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	宮古	学校名	岩泉町立岩泉小学校	TEL	0194-22-3015
------	----	-----	-----------	-----	--------------

学習内容の理解と定着を図るための指導

【ねらい】

岩手県学習定着度状況調査の分布比較



左のグラフは、本校5年生の岩手県学習定着度状況調査の分布比較（平成26年度 算数）である。

本校は、学年30人程度の小規模校である。左のグラフから分かるように低・中位の児童が多く、子どもたちの学力には、ばらつきが見られる。これはどの学年にも共通しており、日常の授業でも学習内容の理解に大きな開きがあり、各担任は指導が難しいと感じている。

このような児童の実態を受け、低位の児童に日常の授業に取り組むための基礎・基本の力を身に付けさせたり、全児童に既習の内容を確実に定着させたりするために、全職員で指導に当たる取組を実施している。

【具体的な取組】

1 校内研での共通確認

第1回の校内研で、担任は標準学力調査（前年度12月実施のもの）から、個々の児童や学級の状況を把握するとともに、今年度落ち込みが予想される内容を確認し、指導書に付箋を貼るなどして今年度の指導の見通しをもった。また、毎時間ではないが、特に算数においては、「習熟のための授業時間の確保」に取り組むことを確認し、各担任が意識して授業を行った。

全国学力・学習状況調査の実施後の校内研では、B問題を教師が解き、求められている学力を確認し、日常の授業や家庭学習の内容に生かすようにした。

2 補習月間の実施

6月と11月の放課後、全校で「補習タイム」を実施した。毎日の実施は、他の活動に支障を来すことが考えられるので、月・火・水の週3日、担任が在校している日に実施することにした。

6月は、昨年度の内容を学級で復習し、確実な定着を目指した。また、各担任から四則計算の個別指導が必要であると考えられる児童をあげてもらい、担任外で指導に当たった。担任外の人数も限られているので、学年の枠を取り、「たし算・ひき算コース」、「わり算コース」、「小数・分数コース」に分けて個別指導を行った。個別指導対象児童の家庭には、担任が連絡をし、了承を得て実施した。少人数での個別指導では、自分のつまづきが解消されていくことから、児童は意欲的に取り組むことができた。

11月は、今年度の学習内容を担任と担任外の2人体制で指導した。家庭学習において問題を解き、朝学習で答え合わせ、放課後の補習タイムで解説というサイクルを意識して指導に当たった。放課後の時間を解説だけに使えること、2人体制で指導に当たることの2つのことを実行し、効率よく定着のための指導ができたと考える。



11月の補習月間の様子

3 少人数指導の実施

本校では、少人数指導担当がおり、3～6年の算数で少人数指導を実施している。今年度から学級を習熟度別に分けることにより、児童一人一人の実態に応じた指導についてより一層意識して取り組むことができている。

(1) グループ編成について

昨年度までは、単元に応じて、等質のグループと習熟度別のグループを使い分けて実施していたが、今年度から多くの時間を習熟度別で実施している。グループを編成する際は、レディネステストの結果と児童の希望を合わせて決定している。どちらのグループの児童も少人数での授業のため、より主体的に学習に取り組むことの支援体制ができている。

(2) 授業以外の指導

定着が難しいと考えられる授業内容のときには、少人数指導担当がその内容に関わるミニプリントを宿題に出すなど、授業内容と課題の内容について意図的につなげることにより、定着を図る取り組みを実施している。

4 各学力調査の個別シートを生かした家庭学習指導

高学年では、全体での事後指導後、問題、解答用紙、個別シートを返却し、一人勉強で自分の苦手な内容を意識して取り組むように指導した。児童もそのことを意識して取り組んでいる。

今後は、学校全体で、一人勉強も含めた系統的な家庭学習の手引きを再検討し、低学年から徐々に自学の力を育成していきたい。

【成果】

- ・今年度の全国学力・学習状況調査で、国語・算数のA問題、B問題ともに全国平均を上回ることができた。
- ・校内研を通し、授業や家庭学習に対する職員の共通理解が図られ、指導に生かされた。
- ・補習月間や少人数指導において、児童の実態に応じた指導ができ、児童が学習に意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。
- ・担任、担任外が協力し全職員で指導に当たる体制が整ってきている。